

母親が感じる育児上の「困難」に関する研究(3)

— 半年後の追跡調査 —

窪 龍 子

実践女子大学人間社会学部

井 狩 芳 子

和泉短期大学児童福祉学科

I. 問題と目的

筆者らは、本紀要の第五集において、母親が感じる育児上の「困難」を「育児上の苦勞」と称して質問し、その有無と要因について検証した。その結果、母親の苦勞には、「母親の自由時間がとれない」「頼れる人や時間が少ない」「自分のキャリアをあきらめた」など母親自身に関することと「子どもが言うことを聞かない」という子どもに関することの二種類があることが判明した。また、子どもに早寝早起きの生活習慣が身に付いていると、「育児上の苦勞なし」と回答する割合が高いことも、前々回の報告と同様に明らかになった。さらに、育児に関して頼りにしているのは、主に「夫」や「実母」など身内であるが、他人との良好なつながりがある人は、育児上の苦勞が軽減されることも報告した。

今回は、2008年7月の調査対象者を追跡調査し、半年間の時間的経過に伴う子どもの成長の変化と母親の苦勞の有無との関連を明らかにすることを目的とした。

II. 調査の概要

1. 対象園

神奈川県横浜市の住宅街にあるN幼稚園および茨城県下妻市にあるT保育園

2. 調査方法

N幼稚園およびT保育園の協力を得て、前回の調査対象者と同じ保護者に対し、日常の育児の状況や子どもの生活のようすについて質問紙法による調査を実施した。

質問紙の内容については、添付資料参照。

3. 調査時期

2009年2月

4. 回答者と回収率

質問紙の配布部数は、N 幼稚園へ120部、T 保育園へ25部配布。回答者数は、N 幼稚園66名、T 保育園23名。回答者のうち、新規の回答者は、N 幼稚園19名、T 保育園4名であった。回収率はN 幼稚園55.0%、T 保育園92.0%であった。

III. 調査の結果

今回の回答者89名のうち、前回との重複回答者は66名であり、25.8%の人が入れ替わっている。従って、半年前の結果と今回の結果をそのまま比較することはできないが、大まかな変化はつかむことができると判断し、結果の項の各表の一部には、今回の89名分の調査結果とともに、参考資料として半年前のデータを添付した。

1. 回答者（母親）の属性

(1) 母親の年齢と子どもの人数

表1に示したように、母親の年齢は30歳台が77.5%を占めている。全体的には、半年前より20歳台が減り30歳台40歳台が増えていることから、年齢が上がっていることが分かる。

表1 回答者の年齢 N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計	半年前(参考)
20歳代	3 (4.5)	3 (13.0)	6 (6.7)	8 (9.0)
30歳代	52 (78.8)	17 (73.9)	69 (77.5)	65 (73.0)
40歳代	10 (15.1)	3 (13.0)	13 (14.6)	11 (12.4)
不明	1 (1.5)	0	1 (1.1)	5 (5.6)
計	66 (100.0)	23 (100.0)	89 (100.0)	89 (100.0)

子どもの人数は、表2に示したが、「2人」という回答が最も多く、「1人」[3人]と続く。半年前に比べると、「1人」が減り「2人」が増えていた。

表2 子どもの人数 N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計	半年前(参考)
1人	15 (22.7)	6 (26.1)	21 (23.6)	24 (27.0)
2人	46 (69.7)	10 (43.5)	56 (62.9)	52 (58.4)
3人	4 (6.1)	5 (21.7)	9 (10.1)	11 (12.4)
4人以上	1 (1.5)	2 (8.7)	3 (3.4)	2 (2.2)
計	66 (100.0)	23 (100.0)	89 (100.0)	89 (100.0)

(2) 家族構成と住居形態

表3と表4に示したように、家族構成は全体で核家族が86.5%と大多数を占め、半年前の結果と大きな差はなかったが、N幼稚園は92.4%、T保育園は69.6%と、園によって差がみられた。住居形態は一戸建て52.8%、集合住宅47.2%であり、半年前より一戸建てが増えていた。また一戸建てはN幼稚園42.4%、T保育園82.6%と、園によって差がみられた。これは、半年前と同じ傾向を示す結果であった。

表3 家族構成

N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計	半年前(参考)
核家族	61 (92.4)	16 (69.6)	77 (86.5)	75 (84.3)
拡大家族	3 (4.5)	5 (21.7)	8 (9.0)	12 (13.5)
その他	2 (3.0)	2 (8.7)	4 (4.5)	2 (2.2)
計	66 (100.0)	23 (100.0)	89 (100.0)	89 (100.0)

表4 住居形態

N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計	半年前(参考)
一戸建て	28 (42.4)	19 (82.6)	47 (52.8)	39 (43.8)
集合住宅	38 (57.6)	4 (17.4)	42 (47.2)	48 (53.9)
その他	0	0	0	2 (2.2)
計	66 (100.0)	23 (100.0)	89 (100.0)	89 (100.0)

(3) 回答者の職業の有無

表5に示したように、有職者50.6%、無職者49.4%と半々の割合であった。半年前に比べると、わずかながら有職者が増えていた。

表5 回答者の職業の有無

N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計	半年前(参考)
あり	23 (34.8)	22 (95.7)	45 (50.6)	41 (46.1)
なし	43 (65.2)	1 (4.3)	44 (49.4)	47 (52.8)
その他	0	0	0	1 (1.1)
計	66 (100.0)	23 (100.0)	89 (100.0)	89 (100.0)

2. 育児の状況

(1) 二種類の苦勞

先回の調査では、前述のように、育児上の苦勞には親自身に関する苦勞が少なくないことが判明したので、今回は、親自身に関する苦勞と子どもに関する苦勞の二つに分けて設問し調査した。

その結果、子どもに関する苦勞では、「子どもが言うことを聞かない」28.1%、「子どもの食に関すること」28.1%が主な回答であったが、「言うことを聞かない」はN幼稚園で31.8%、T保育園で17.4%と差がみられた。親自身に関する苦勞は「自由時間が取れない」29.2%、「仕事と育児の両立」27.0%、「自分の健康維持・体調不良」23.6%が主なものであった（表6、表7）。

一方、「子どもに関する苦勞なし」とする回答は89名中22名（24.7%）、「親自身に関する苦勞なし」は89名中26名（29.2%）であった。両方とも「苦勞なし」とした回答は、14名（15.7%）であった。

表6 子どもに関する苦勞(複数回答)

N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計	半年前(参考)
言うことを聞かない	21 (31.8)	4 (17.4)	25 (28.1)	26 (29.2)
食に関すること	19 (28.8)	6 (26.1)	25 (28.1)	14 (15.7)
アレルギー疾患などの病気	7 (10.6)	2 (8.6)	9 (10.1)	—
生活リズム生活習慣の樹立	6 (9.1)	2 (8.6)	8 (9.0)	—
感情が不安定なこと	5 (7.6)	3 (13.0)	8 (9.0)	—
落ち着きなく何をするか不明	5 (7.6)	1 (4.3)	6 (6.7)	—
ことばや発音に関すること	3 (4.5)	1 (4.3)	4 (4.5)	—
子どもの気持ちが分らない	0	2 (8.7)	2 (2.2)	5 (5.6)
あそびに関すること	2 (3.0)	0	2 (2.2)	—
日常の世話すべてが大変	1 (1.5)	1 (4.3)	2 (2.2)	12 (13.5)
その他	12 (18.2)	4 (17.4)	16 (18.0)	20 (22.5) *
特に苦勞はない	16 (24.2)	6 (26.1)	22 (24.7)	20 (22.5) *
回答者数	66	23	89	89

注) 一印; 半年前には調査項目なし *印; 半年前のデータは親自身と子に関する苦勞の合計

表7 親自身の苦勞（複数回答）

N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計	半年前（参考）
自由時間がとれない	20 (30.3)	6 (26.1)	26 (29.2)	18 (20.2)
仕事と育児の両立	14 (21.2)	10 (43.5)	24 (27.0)	17 (19.1)
自分の健康維持、体調不良	16 (24.2)	5 (21.7)	21 (23.6)	13 (14.6)
家事全般が煩わしい	10 (15.2)	3 (13.0)	13 (14.6)	—
経済的なこと	7 (10.6)	4 (17.4)	11 (12.4)	5 (5.6)
配偶者の非協力	4 (6.1)	1 (4.3)	5 (5.6)	5 (5.6)
親たちの口出し	2 (3.0)	3 (13.0)	5 (5.6)	2 (2.2)
世の中から取り残される	1 (1.5)	1 (4.3)	2 (2.2)	—
親しいママ友がない	0	0	0	1 (1.1)
その他	0	1 (4.3)	1 (1.1)	20 (22.5) *
特に苦勞はなし	22 (33.3)	4 (17.4)	26 (29.2)	20 (22.5) *
回答者数	66	23	89	89

注) 一印；半年前には調査項目なし *印；半年前のデータは親自身と子に関する苦勞の合計

(2) 育児で大切なこと

育児で大切なことについて、二種類の苦勞群に分けて集計した。

「子どもに関する苦勞なし群」は、子どもは「健康であればよい」が46.2%と最も多く、次に「親子の気持ちを通じ合う」30.7%であった。「子どもに関する苦勞あり群」は、「自主的な意思表示ができる」41.3%、「親子の気持ちを通じ合う」が34.9%、「友だちと仲良くする」31.7%、「健康であればよい」30.2%の順であった（表8）。

「親自身に関する苦勞なし群」も、子どもは「健康であればよい」が38.5%と最も多く、次に「親子の気持ちを通じ合う」34.6%であった。「親自身の苦勞あり群」は、「自主的な意思表示ができる」33.3%、「親子の気持ちを通じ合う」が31.7%、「健康であればよい」31.7%の順であった（表9）。

なお、今回の調査では、「育児で大切なこと」の項目に対して「無回答」が27%と多かったので、その点を考慮すると半年前との単純な比較は難しい。

表8 子どもに関する苦勞の有無と育児で大切なこと（複数回答） N(%)

	子に関する 苦勞あり群	子に関する 苦勞なし群	計	半年前（参考）
健康であればよい	19 (30.2)	12 (46.2)	31 (34.8)	52 (58.4)
親子の気持が通じ合う	22 (34.9)	8 (30.7)	30 (33.7)	50 (56.2)
自主的な意思表示	26 (41.3)	3 (11.5)	29 (32.6)	44 (49.4)
友達と仲良くする	20 (31.7)	5 (19.2)	25 (28.1)	54 (60.7)
園でうまくやってゆく	14 (22.2)	5 (19.2)	19 (21.3)	40 (44.9)
子の気持を受け止める	9 (14.3)	1 (3.8)	10 (11.2)	12 (13.5)
言うことを聞く素直さ	1 (1.6)	1 (3.8)	2 (2.2)	9 (10.1)
成長の指標に遅れない	2 (3.2)	0	2 (2.2)	7 (7.9)
稽古で可能性を伸ばす	1 (1.6)	0	1 (1.1)	5 (5.6)
その他	7 (11.1)	1 (3.8)	8 (9.0)	12 (13.5)
不明(回答なし)	20 (31.7)	4 (15.4)	24 (27.0)	—
回答者数	63	26	89	89

表9 親自身の苦勞の有無と育児で大切なこと（複数回答） N(%)

	親自身の 苦勞あり群	親自身の 苦勞なし群	計	半年前（参考）
健康であればよい	20 (31.7)	10 (38.5)	30 (33.7)	52 (58.4)
親子の気持が通じ合う	20 (31.7)	9 (34.6)	29 (32.6)	50 (56.2)
自主的な意思表示	21 (33.3)	8 (30.8)	29 (32.6)	44 (49.4)
友達と仲良くする	18 (28.6)	6 (23.1)	24 (27.0)	54 (60.7)
園でうまくやってゆく	13 (20.6)	5 (19.2)	18 (20.2)	40 (44.9)
子の気持を受け止める	6 (9.5)	4 (15.4)	10 (11.2)	12 (13.5)
言うことを聞く素直さ	1 (1.6)	1 (3.8)	2 (2.2)	9 (10.1)
成長の指標に遅れない	2 (3.2)	0	2 (2.2)	7 (7.9)
稽古で可能性を伸ばす	1 (1.6)	0	1 (1.1)	5 (5.6)
その他	5 (7.9)	3 (11.5)	8 (9.0)	12 (13.5)
不明(回答なし)	24 (38.1)	0	24 (27.0)	—
回答者数	63	26	89	89

(3) しっかり躾けることと子どもに任せること

しっかりと躾けるという回答で多かったのは、全体的にみると、主なものは「歯みがきをする」58.4%、「知人に挨拶をする」58.4%、「いじわるをしない」57.3%、「家庭内で挨拶をする」52.0%、「就寝時間」48.3%、「食事のマナー」44.9%の順であった。

子どもに関する苦勞の有無で、しっかりと躾ける項目が50%以上の割合を占めた項目は、「子どもに関する苦勞なし群」では、「知人に挨拶をする」68.2%、「家庭内で挨拶をする」63.6%、「食事のマナー」59.1%、「就寝時間」54.5%であった。「苦勞あり群」で50%以上であったのは、「歯みがきをする」61.2%、「いじわるをしない」61.2%、「知人に挨拶をする」55.2%であった(表10)。

同様に「親に関する苦勞あり群」と「苦勞なし群」において、しっかりと躾ける項目で50%以上を占めたのは、「親自身の苦勞なし群」では、「知人に挨拶をする」61.5%、「家庭内で挨拶をする」53.8%、「歯みがきをする」53.8%、「いじわるをしない」53.8%、「食事のマナー」50.0%であった。「苦勞あり群」では、「歯みがきをする」58.7%、「いじわるをしない」57.1%、「知人に挨拶をする」55.6%、「家庭内で挨拶をする」50.8%であった(表11)。

表10 子どもに関する苦勞の有無としっかりと躾けること(複数回答) N(%)

	子に関する 苦勞あり群	子に関する 苦勞なし群	計
歯みがきをする	41 (61.2)	11 (50.0)	52 (58.4)
知人に挨拶をする	37 (55.2)	15 (68.2)	52 (58.4)
いじわるをしない	41 (61.2)	10 (45.5)	51 (57.3)
家庭内で挨拶をする	33 (49.3)	14 (63.6)	47 (52.8)
就寝時間	31 (46.3)	12 (54.5)	43 (48.3)
食事のマナー	27 (40.3)	13 (59.1)	40 (44.9)
起床時間	16 (23.9)	10 (15.5)	26 (29.2)
食事を残さない	14 (20.9)	8 (36.4)	22 (24.7)
登園する、休まない	15 (22.4)	7 (31.8)	22 (24.7)
親の言うことを聞く	13 (19.4)	3 (13.6)	16 (18.0)
テレビを見る時間	9 (13.4)	7 (31.8)	16 (18.0)
衣類の着脱をきちんとする	10 (14.9)	6 (27.3)	16 (18.0)
ぐずぐず言わない	8 (11.9)	3 (13.6)	11 (12.4)
食事にかかる時間	3 (4.5)	4 (18.2)	7 (7.9)
けいこ事を休まない	4 (6.0)	1 (4.5)	5 (5.6)
その他	7 (10.4)	0	7 (7.9)
不明(回答なし)	25 (37.3)	0	25 (28.1)
回答者数	67	22	89

表11 親自身の苦勞の有無としっかり躰けること（複数回答）

N(%)

	親自身の 苦勞あり群	親自身の 苦勞なし群	計
歯みがきをする	37 (58.7)	14 (53.8)	51 (57.3)
知人に挨拶をする	35 (55.6)	16 (61.5)	51 (57.3)
いじわるをしない	36 (57.1)	14 (53.8)	50 (56.2)
家庭内で挨拶をする	32 (50.8)	14 (53.8)	46 (51.7)
就寝時間	30 (47.6)	12 (46.2)	42 (47.2)
食事のマナー	26 (41.3)	13 (50.0)	39 (43.8)
起床時間	17 (27.0)	9 (34.6)	26 (29.2)
食事を残さない	12 (19.0)	10 (38.5)	22 (24.7)
登園する、休まない	15 (23.8)	7 (26.9)	22 (24.7)
親の言うことを聞く	13 (20.6)	2 (7.7)	15 (16.9)
テレビを見る時間	11 (17.5)	5 (19.2)	16 (18.0)
衣類の着脱をきちんとする	8 (12.7)	7 (26.9)	15 (16.9)
ぐずぐず言わない	9 (14.3)	2 (7.7)	11 (12.4)
食事にかかる時間	4 (6.3)	3 (11.5)	7 (7.9)
けいこ事を休まない	5 (7.9)	0	5 (5.6)
その他	6 (9.5)	1 (3.8)	7 (7.9)
不明(回答なし)	25 (39.7)	0	25 (28.1)
回答者数	63	26	89

子どもに任せている項目について、全体的に見ると「食事にかかる時間」の38.2%が最高の割合で、「テレビを見る時間」33.7%、「起床時間」20.2%と続き、多くのことを子ども任せにしていないことが分かる。

子どもに関する苦勞の有無との関連で見ると、「苦勞なし群」の回答の割合が多かったのは、「食事にかかる時間」31.8%、「テレビを見る時間」31.8%であった。「苦勞あり群」で多かったのは、「食事にかかる時間」が40.3%、「テレビを見る時間」の34.3%であった（表12）。

子どもに任せている項目について、親自身に関する苦勞の有無との関連で見ると、全体的には「食事にかかる時間」38.2%、「テレビを見る時間」33.7%が多かった。「苦勞なし群」に多かったのは、「食事にかかる時間」「衣類の着脱をきちんとする」「ぐずぐず言わない」がいずれも23.1%であり、「苦勞あり群」の方に多かったのは、「食事にかかる時間」44.4%、「テレビを見る時間」42.9%、「食事を残さない」20.6%などであった（表13）。

表12 子どもに関する苦勞の有無と子どもに任せること（重複回答） N(%)

	子に関する 苦勞あり群	子に関する 苦勞なし群	計
はみがきをする	2 (3.0)	1 (4.5)	3 (3.4)
知人にあいさつをする	2 (3.0)	2 (9.1)	4 (4.5)
いじわるをしない	4 (5.9)	3 (13.6)	7 (7.9)
家庭内であいさつをする	4 (5.9)	2 (9.1)	6 (6.7)
就寝時間	3 (4.5)	2 (9.1)	5 (5.6)
食事のマナー	5 (7.5)	3 (13.6)	8 (9.0)
起床時間	13 (19.4)	5 (22.7)	18 (20.2)
食事を残さない	12 (17.9)	4 (18.2)	16 (18.0)
登園する、休まない	8 (11.9)	2 (9.1)	10 (11.2)
親の言うことを聞く	2 (3.0)	2 (9.1)	4 (4.5)
テレビを見る時間	23 (34.3)	7 (31.8)	30 (33.7)
衣類の着脱をきちんとする	15 (22.4)	4 (18.2)	19 (21.3)
ぐずぐず言わない	6 (9.0)	3 (13.6)	9 (10.1)
食事にかかる時間	27 (40.3)	7 (31.8)	34 (38.2)
けいこ事を休まない	1 (1.5)	0	1 (1.1)
その他	8 (11.9)	0	8 (9.0)
不明(回答なし)	33 (49.3)	8 (36.4)	41 (46.1)
回答者数	67	22	89

表13 親自身の苦勞の有無と子どもに任せること（複数回答） N(%)

	親自身の 苦勞あり群	親自身の 苦勞なし群	計
はみがきをする	2 (3.2)	1 (3.8)	3 (3.8)
知人に挨拶をする	3 (4.8)	1 (3.8)	4 (4.5)
いじわるをしない	5 (7.9)	2 (7.7)	7 (7.9)
家庭内で挨拶をする	5 (7.9)	1 (3.8)	6 (6.7)
就寝時間	5 (7.9)	0	5 (5.6)
食事のマナー	6 (9.5)	2 (7.7)	8 (9.0)
起床時間	13 (20.6)	5 (19.2)	18 (20.2)
食事を残さない	13 (20.6)	3 (11.5)	16 (18.0)
登園する、休まない	8 (12.7)	2 (7.7)	10 (11.2)
親の言うことを聞く	2 (3.2)	2 (7.7)	4 (4.5)
テレビを見る時間	27 (42.9)	3 (11.5)	30 (33.7)
衣類の着脱をきちんとする	13 (20.6)	6 (23.1)	19 (21.3)
ぐずぐず言わない	3 (4.8)	6 (23.1)	9 (10.1)
食事にかかる時間	28 (44.4)	6 (23.1)	34 (38.2)
けいこ事を休まない	1 (1.6)	0	1 (1.2)
その他	6 (9.5)	2 (7.7)	8 (9.0)
不明(回答なし)	33 (52.4)	8 (30.8)	41 (46.1)
回答者数	63	26	89

(4) 泣く時の対処法

子どもの機嫌が悪く、泣きやまないときなどの対処法を表 14、表 15 に示した。全体的に多いのは「抱っこする」64.0%であった。これは、半年前にくらべても17~8ポイントほど増えている。子どもに関する苦勞、親自身の苦勞にかかわらず「苦勞なし群」は「抱っこする」だけが50%以上であるのに対し、「苦勞あり群」では「抱っこする」が70%近くを占め、同時に「言葉かけ・機嫌を取る」という対処法も50%以上を占めていた。

表14 子どもに関する苦勞の有無と泣く時の対処法（複数回答） N(%)

	子に関する 苦勞あり群	子に関する 苦勞なし群	計	半年前（参考）
言葉かけ、機嫌を取る	35 (52.2)	5 (22.7)	40 (44.9)	34 (38.2)
抱っこする	45 (67.2)	12 (54.5)	57 (64.0)	41 (46.1)
放っておく	13 (19.4)	6 (27.3)	19 (21.3)	29 (32.6)
気分転換を図る	11 (16.4)	3 (13.6)	14 (15.7)	33 (37.2)
口で叱る	6 (9.0)	0	6 (6.7)	16 (18.0)
叩く	1 (1.5)	0	1 (1.1)	0
その他	8 (11.9)	5 (22.7)	13 (14.6)	6 (6.7)
不明(回答なし)	25 (37.3)	0	25 (28.1)	—
回答者数	67	22	89	89

表15 親自身の苦勞の有無と泣く時の対処法（複数回答） N(%)

	親自身の 苦勞あり群	親自身の 苦勞なし群	計	半年前（参考）
言葉かけ、機嫌を取る	35 (55.6)	5 (19.2)	40 (44.9)	34 (38.2)
抱っこする	43 (68.3)	13 (50.0)	56 (62.9)	41 (46.1)
放っておく	13 (20.6)	6 (23.1)	19 (21.3)	29 (32.6)
気分転換を図る	10 (15.9)	3 (11.5)	13 (14.9)	33 (37.2)
口で叱る	5 (7.9)	1 (3.8)	6 (6.7)	16 (18.0)
叩く	1 (1.6)	0	1 (1.1)	0
その他	7 (11.1)	6 (23.1)	13 (14.6)	6 (6.7)
不明(回答なし)	25 (39.7)	0	25 (28.1)	—
回答者数	63	26	89	89

4. 子どもと親の生活時間

(1) 子どもの生活時間の現状

① 起床時間と就寝時間

子どもの起床時間について、全体的には平日の7時台前半が40.4%と最も多かったが、休日になると、7時台前半の30.3%と8時台前半の29.2%とに分散し、休日になると起床時間が遅くなる傾向がみられた。

平日で次に多いのが、「子どもに関する苦勞なし群」では6時台後半の27.3%、「苦勞あり群」は7時台後半の26.9%であった。「苦勞なし群」の方が、早起きの傾向がみられた。

休日で、全体的に最も多いのは、平日と同じ7時台前半の30.3%であったが、次に多いのは、「子どもに関する苦勞なし群」が6時台後半の13.6%、7時台後半の13.6%であるのに対し、「苦勞あり群」は8時台前半の方が31.3%と最も多く、次が7時台前半の29.9%、7時台後半の20.9%の順であった。休日でも「苦勞なし群」の方が早起きの傾向がみられた(表16、表18)。

表16 子どもに関する苦勞の有無と平日の子どもの起床時間

N(%)

	子どもに関する 苦勞あり群	子どもに関する 苦勞なし群	計	半年前(参考)
5時台	0	1 (4.5)	1 (1.1)	3 (3.4)
6時台前半	2 (3.0)	2 (9.1)	4 (4.5)	16 (18.0)
6時台後半	16 (23.9)	6 (27.3)	22 (24.7)	23 (25.8)
7時台前半	27 (40.3)	9 (40.9)	36 (40.4)	29 (32.6)
7時台後半	18 (26.9)	4 (18.2)	22 (24.7)	12 (13.5)
8時台前半	4 (6.0)	0	4 (4.5)	3 (3.4)
不明	0	0	0	3 (3.4)
計	67 (100.0)	22 (100.0)	89 (100.0)	89 (100.0)

表17 親自身の苦勞の有無と平日の子どもの起床時間

N(%)

	親自身の 苦勞あり群	親自身の 苦勞なし群	計	半年前(参考)
5時台	1 (1.6)	0	1 (1.1)	3 (3.4)
6時台前半	2 (3.2)	2 (7.7)	4 (4.5)	16 (18.0)
6時台後半	16 (25.4)	5 (19.2)	21 (23.6)	23 (25.8)
7時台前半	25 (39.7)	11 (42.3)	36 (40.4)	29 (32.6)
7時台後半	15 (23.8)	7 (26.9)	22 (24.7)	12 (13.5)
8時台前半	3 (4.8)	1 (3.8)	4 (4.5)	3 (3.4)
不明	1 (1.6)	0	1 (1.1)	3 (3.4)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)	89 (100.0)

「親自身に関する苦勞あり群」と「苦勞なし群」で、最も多かったのも7時台前半の40.4%であった。次に多かったのは、平日は「苦勞なし群」が7時台後半の26.9%、「苦勞あり群」が6時台後半の25.4%で、ここでは「苦勞あり群」の方が早起きの傾向がみられた。休日になると、全体で最も多いのが7時台前半の30.3%であり、その割合は平日よりも減っている。二番目に「親自身の苦勞なし群」で多いのは、8時台前半の34.6%であり、「苦勞あり群」においても8時台前半の27.0%であった。両群に大きな違いは見られなかった（表17、表19）。

表18 子どもに関する苦勞の有無と子どもの休日の起床時間 N(%)

	子どもに関する 苦勞あり群	子どもに関する 苦勞なし群	計	半年前(参考)
6時台前半	0	2 (9.1)	2 (2.2)	9 (10.1)
6時台後半	4 (6.0)	3 (13.6)	7 (7.9)	9 (10.1)
7時台前半	20 (29.9)	7 (31.8)	27 (30.3)	23 (25.8)
7時台後半	14 (20.9)	3 (13.6)	17 (19.1)	14 (15.7)
8時台前半	21 (31.3)	5 (22.7)	26 (29.2)	23 (25.8)
8時台後半	6 (9.0)	1 (4.5)	7 (7.9)	4 (4.5)
9時台前半	2 (3.0)	1 (4.5)	3 (3.4)	3 (3.4)
計	67 (100.0)	22 (100.0)	89 (100.0)	89 (100.0)

表19 親自身の苦勞の有無と子どもの休日の起床時間 N(%)

	親自身の 苦勞あり群	親自身の 苦勞なし群	計	半年前(参考)
6時台前半	1 (1.6)	1 (3.8)	2 (2.2)	9 (10.1)
6時台後半	4 (6.3)	3 (11.5)	7 (7.9)	9 (10.1)
7時台前半	18 (28.6)	9 (34.6)	27 (30.3)	23 (25.8)
7時台後半	15 (23.8)	1 (3.8)	16 (18.0)	14 (15.7)
8時台前半	17 (27.0)	9 (34.6)	26 (29.2)	23 (25.8)
8時台後半	5 (7.9)	2 (7.7)	7 (7.9)	4 (4.5)
9時台前半	2 (3.2)	1 (3.8)	3 (3.4)	3 (3.4)
不明	1 (1.6)	0	1 (1.1)	4 (4.5)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)	89 (100.0)

平日の子どもの就寝時間は、全体的に最も多い時間帯は21時台前半の38.2%であり、休日の就寝時間で最も多い時間帯は、同じく21時台前半の33.7%であった。その差は4.5ポイントほどであり、就寝時間は起床時間ほどには遅くなっていない。

平日の2番目に多いのは「子どもに関する苦勞なし群」では19時台の22.7%、「苦勞あり

群」では21時台後半の17.9%であった。「苦勞なし群」の方が早寝の傾向がみられた。

休日の二番目は「子どもに関する苦勞なし群」では、19時台、21時台後半、22時台前半のいずれもが13.6%であった。「苦勞あり群」の二番目は21時台後半の28.4%であり、平日と同じく「苦勞なし群」の方が早寝の傾向がみられた（表20、表22）。

また「親に関する苦勞なし群」で平日に最も多いのは20時台前半の30.8%で、二番目は20時台後半の23.1%であり、「苦勞あり群」で最も多いのは21時台前半の41.3%で、二番目は20時台後半と21時台後半の17.5%であった。「苦勞なし群」の方が早寝の傾向がみられた。休日の「親に関する苦勞なし群」で最も多いのは20時台後半の26.9%で、二番目は21時台前半の23.1%であった。「苦勞あり群」で最も多いのは21時台前半の38.1%で、二番目は21時台後半の27%であった。「苦勞なし群」の方が早寝の傾向がみられた（表21、表23）。

なお、半年前のデータと比較してみると、平日では、22時台後半から24時以降に就寝する子どもが半年前には8.9%あったのが、今回は皆無であった（表20、表21）。子どもが3歳を過ぎて徐々に生活のリズムを身に付けてきていることが分かる。

表20 子どもに関する苦勞の有無の子どもの平日の就寝時間

N(%)

	子どもに関する 苦勞あり群	子どもに関する 苦勞なし群	計	半年前(参考)
19時台	4 (6.0)	5 (22.7)	9 (10.1)	8 (9.0)
20時台前半	4 (6.0)	1 (4.5)	5 (5.6)	14 (15.7)
20時台後半	13 (19.4)	4 (18.2)	17 (19.1)	16 (18.0)
21時台前半	27 (40.3)	7 (31.8)	34 (38.2)	24 (27.0)
21時台後半	12 (17.9)	2 (9.1)	14 (15.7)	13 (14.6)
22時台前半	7 (10.4)	2 (9.1)	9 (10.1)	3 (3.4)
22時台後半	0	0	0	4 (4.5)
23時台前半	0	0	0	2 (2.2)
23時台後半	0	0	0	1 (1.1)
24時以降	0	0	0	1 (1.1)
不明	0	1 (4.5)	1 (1.1)	3 (3.4)
計	67 (100.0)	22 (100.0)	89 (100.0)	89 (100.0)

表21 親自身の苦勞の有無と子どもの平日の就寝時間

N(%)

	親自身の 苦勞あり群	親自身の 苦勞なし群	計	半年前(参考)
19時台	4 (6.3)	4 (15.4)	8 (9.0)	8 (9.0)
20時台前半	3 (4.8)	2 (7.7)	5 (5.6)	14 (15.7)
20時台後半	11 (17.5)	6 (23.1)	17 (19.1)	16 (18.0)
21時台前半	26 (41.3)	8 (30.8)	34 (38.2)	24 (27.0)
21時台後半	11 (17.5)	3 (11.5)	14 (15.7)	13 (14.6)
22時台前半	6 (9.5)	0	9 (10.1)	3 (3.4)
22時台後半	0	0	0	4 (4.5)
23時台前半	0	0	0	2 (2.2)
23時台後半	0	0	0	1 (1.1)
24時以降	0	0	0	1 (1.1)
不明	2 (3.2)	0	2 (2.2)	3 (3.4)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)	89 (100.0)

さらに休日では、半年前には22時台後半から24時以降に就寝する子どもが11.3%あったのに対し、今回は3%台にまで減少していた(表22、表23)。平日の就寝時間ほどではないが、ここでも遅寝の子どもが減り、徐々に生活のリズムを身に付けてきていることが分かる。

表22 子どもに関する苦勞の有無と子どもの休日の就寝時間

N(%)

	子どもに関する 苦勞あり群	子どもに関する 苦勞なし群	計	半年前(参考)
19時台	0	3 (13.6)	3 (3.4)	2 (2.2)
20時台前半	6 (9.0)	2 (9.1)	8 (9.0)	9 (10.1)
20時台後半	10 (14.9)	2 (9.1)	12 (13.5)	10 (11.2)
21時台前半	23 (34.3)	7 (31.8)	30 (33.7)	27 (30.3)
21時台後半	19 (28.4)	3 (13.6)	22 (24.7)	18 (20.2)
22時台前半	8 (11.9)	3 (13.6)	11 (12.4)	7 (7.9)
22時台後半	1 (1.5)	0	1 (1.1)	3 (3.4)
23時台前半	0	0	0	4 (4.5)
23時台後半	0	2 (9.1)	2 (2.2)	0
24時以降	0	0	0	3 (3.4)
不明	0	0	0	6 (6.7)
計	67 (100.0)	22 (100.0)	89 (100.0)	89 (100.0)

表23 親自身の苦勞の有無と子どもの休日の就寝時間

N(%)

	親自身の 苦勞あり群	親自身の 苦勞なし群	計	半年前(参考)
19時台	1 (1.6)	2 (7.7)	3 (3.4)	2 (2.2)
20時台前半	7 (11.1)	1 (3.8)	8 (9.0)	9 (10.1)
20時台後半	4 (6.3)	7 (26.9)	11 (12.4)	10 (11.2)
21時台前半	24 (38.1)	6 (23.1)	30 (33.7)	27 (30.3)
21時台後半	17 (27.0)	5 (19.2)	22 (24.7)	18 (20.2)
22時台前半	7 (11.1)	4 (15.4)	11 (12.4)	7 (7.9)
22時台後半	1 (1.6)	0	1 (1.1)	3 (3.4)
23時台前半	0	0	0	4 (4.5)
23時台後半	1 (1.6)	1 (3.8)	2 (2.2)	0
24時以降	0	0	0	3 (3.4)
不明	1 (1.6)	0	1 (1.1)	6 (6.7)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)	89 (100.0)

② 食事時間

平日の子どもの朝食時間をみると、最も多いのは、「子どもに関する苦勞なし群」が7時台前半54.5%、「親自身の苦勞なし群」も同じく7時台前半が38.5%であるのに対し、「子どもに関わる苦勞あり群」は7時台後半が43.3%、「親自身の苦勞あり群」同じく7時台後半が39.7%であった。両方とも「苦勞なし群」の方が、朝食時間が早い傾向がみられた(表24、表25)。

表24 子どもに関する苦勞の有無と子どもの平日の朝食時間

N(%)

	子どもに関する苦勞あり群	子どもに関する苦勞なし群	計
朝食なし	0	1 (4.5)	1 (1.1)
6時台後半	3 (4.5)	2 (9.1)	5 (5.6)
7時台前半	21 (31.3)	12 (54.5)	33 (37.1)
7時台後半	29 (43.3)	4 (18.2)	33 (37.1)
8時台前半	11 (16.4)	3 (13.6)	14 (15.7)
8時台後半	3 (4.5)	0	3 (3.4)
計	67 (100.0)	22 (100.0)	89 (100.0)

表25 親自身の苦勞の有無と子どもの平日の朝食時間

N(%)

	親自身の苦勞あり群	親自身の苦勞なし群	計
なし	1 (1.6)	0	1 (1.1)
6時台後半	3 (4.8)	2 (7.7)	5 (5.6)
7時台前半	22 (34.9)	10 (38.5)	32 (36.0)
7時台後半	25 (39.7)	8 (30.8)	33 (37.1)
8時台前半	9 (14.3)	5 (19.2)	14 (15.7)
8時台後半	2 (3.2)	1 (3.8)	3 (3.4)
不明	1 (1.6)	0	1 (1.1)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)

休日の子どもの朝食時間をみると、「子どもに関する苦勞なし群」では最も多いのが8時台前半の27.3%で、平日よりも1時間ほど遅くなっている。二番目は、その前後の7時台後半と8時台後半のそれぞれ18.2%であった。「苦勞あり群」は8時台後半が最も多く29.9%で、やはり平日よりも1時間ほど遅くなっている。その次は8時台前半の25.4%であった(表26)。

休日の「親自身の苦勞なし群」では、最も多い朝食時間が8時台後半の30.8%、次が8時台前半の26.9%であるのに対し、「苦勞あり群」で最も多いのは8時台前半の25.4%、次が8時台後半の23.8%であった。一見「苦勞あり群」の方が朝食時間は早いように見えるが、全体的には7時台前半から10時以降までの時間的広がりがあり、「苦勞なし群」の6時台後半から9時台後半までの広がりとは比べると、やはり「苦勞なし群」の方が朝食時間は早い傾向があるといえよう(表27)。

表26 子どもに関する苦勞の有無と子どもの休日の朝食時間

N(%)

	子どもに関する苦勞あり群	子どもに関する苦勞なし群	計
6時台後半	0	1 (4.5)	1 (1.1)
7時台前半	3 (4.5)	3 (13.6)	6 (6.7)
7時台後半	9 (13.4)	4 (18.2)	13 (14.6)
8時台前半	17 (25.4)	6 (27.3)	23 (25.8)
8時台後半	20 (29.9)	4 (18.2)	24 (27.0)
9時台前半	12 (17.9)	3 (13.6)	15 (16.9)
9時台後半	5 (7.5)	0	5 (5.6)
10時以降	1 (1.5)	1 (4.5)	2 (2.2)
計	67 (100.0)	22 (100.0)	89 (100.0)

表27 親自身の苦勞の有無と子どもの休日の朝食時間

N(%)

	親自身の苦勞あり群	親自身の苦勞なし群	計
6時台後半	0	1 (3.8)	1 (1.1)
7時台前半	3 (4.8)	3 (11.5)	6 (6.7)
7時台後半	11 (17.5)	2 (7.7)	13 (14.6)
8時台前半	16 (25.4)	7 (26.9)	23 (25.8)
8時台後半	15 (23.8)	8 (30.8)	23 (25.6)
9時台前半	11 (17.5)	4 (15.4)	15 (16.9)
9時台後半	4 (6.3)	1 (3.8)	5 (5.6)
10時以降	2 (3.2)	0	2 (2.2)
不明	1 (1.6)	0	1 (1.1)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)

平日の夕食時間については、最も多いのは、「子どもに関する苦勞なし群」が18時台後半の36.4%、「親自身の苦勞なし群」が同じく18時台後半の42.3%であるのに対し、「子どもに関する苦勞あり群」は19時台前半34.3%、「親自身の苦勞あり群」同じく19時台前半の33.3%であった。朝食同様、両方の「苦勞なし群」に、夕食時間が早い傾向がみられた（表28、表29）。

表28 子どもに関する苦勞の有無と子どもの平日の夕食時間

N(%)

	子どもに関する苦勞あり群	子どもに関する苦勞なし群	計
17時前	1 (1.5)	0	1 (1.1)
17時台前半	3 (4.5)	2 (9.1)	5 (5.6)
17時台後半	3 (4.5)	0	3 (3.4)
18時台前半	13 (19.4)	5 (22.7)	18 (20.2)
18時台後半	15 (22.4)	8 (36.4)	23 (25.8)
19時台前半	23 (34.3)	5 (22.7)	28 (31.5)
19時台後半	7 (10.4)	0	7 (7.9)
20時台前半	2 (3.0)	1 (4.5)	3 (3.4)
不明	0	1 (4.5)	1 (1.1)
回答者数	67	22	89

表29 親自身の苦勞の有無と子どもの平日の夕食時間

N(%)

	親自身の苦勞あり群	親自身の苦勞なし群	計
17時前	1 (1.6)	0	1 (1.1)
17時台前半	3 (4.8)	1 (3.8)	4 (4.5)
17時台後半	3 (4.8)	0	3 (3.4)
18時台前半	12 (19.0)	6 (23.1)	18 (20.2)
18時台後半	12 (19.0)	11 (42.3)	23 (25.8)
19時台前半	21 (33.3)	7 (26.9)	28 (31.5)
19時台後半	6 (9.5)	1 (3.8)	7 (7.9)
20時台前半	3 (4.8)	0	3 (3.4)
不明	2 (3.2)	0	2 (2.2)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)

休日の夕食時間で多いのは、全体では19時台前半の43.8%で、平日の時間帯と同じである。「子どもに関する苦勞なし群」の二番目が18時台前半と19時台前半の36.4%、「苦勞あり群」は19時台前半の46.3%が最も多く、次が18時台後半の20.9%であった。夕食時間は「苦勞なし群」の方がやや早い傾向がみられた。「親自身の苦勞なし群」は19時台前半が46.2%、18時台後半26.9%であるのに対し、「苦勞あり群」は19時台前半42.9%、18時台前半20.6%と続き、両群に大きな差は見られなかった(表30、表31)。

表30 子どもに関する苦勞の有無と子どもの休日の夕食時間

N(%)

	子どもに関する苦勞あり群	子どもに関する苦勞なし群	計
17時台前半	2 (3.0)	1 (4.5)	3 (3.4)
17時台後半	3 (4.5)	0	3 (3.4)
18時台前半	10 (14.9)	8 (36.4)	18 (20.2)
18時台後半	14 (20.9)	4 (18.2)	18 (20.2)
19時台前半	31 (46.3)	8 (36.4)	39 (43.8)
19時台後半	6 (9.0)	1 (4.5)	7 (7.9)
20時台前半	1 (1.5)	0	1 (1.1)
計	67 (100.0)	22 (100.0)	89 (100.0)

表31 親自身の苦勞の有無と子どもの休日の夕食時間

N(%)

	親自身の苦勞あり群	親自身の苦勞なし群	計
17時台前半	2 (3.2)	1 (3.8)	3 (3.4)
17時台後半	2 (3.2)	0	2 (2.2)
18時台前半	13 (20.6)	5 (19.2)	18 (20.2)
18時台後半	11 (17.5)	7 (26.9)	18 (20.2)
19時台前半	27 (42.9)	12 (46.2)	39 (43.8)
19時台後半	6 (9.5)	1 (3.8)	7 (7.9)
20時台前半	1 (1.6)	0	1 (1.1)
不明	1 (1.6)	0	1 (1.1)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)

(2) 親の生活時間

① 起床時間と就寝時間

平日の親の起床時間は、全体では6時台後半が33.7%、6時台前半が31.5%と多く、子どもの起床時間より30分から1時間ほど早い。親の方が早起きをするについては「子どもに関する苦勞なし群」も「苦勞あり群」も同じであった(表32)。しかし「親自身に関する苦勞あり群」と「苦勞なし群」を比べると、「苦勞あり群」で最も多いのは6時台前半の33.3%であり、続いて6時台後半の28.6%、5時台起床の15.9%の順であるのに対し、「苦勞なし群」で最も多いのは6時台後半の42.3%、次に6時台前半が26.9%、5時台が7.7%と続き、「苦勞あり群」の親の方が早起きの傾向がみられた(表33)。

休日の親の起床時間に関して全体的に多いのは、7時台前半の28.1%であった。「子どもに関する苦勞なし群」と「親自身に関する苦勞なし群」でみると、7時台前半がそれぞれ36.4%、38.5%であるのに対し、「子どもに関する苦勞あり群」は7時台前半25.4%、7時台後半23.9%、8時台前半22.4%であり、「親自身の苦勞あり群」はそれぞれが23.8%、22.2%、23.8%であった。休日では両方とも「苦勞あり群」の方が遅起きの傾向がみられた(表34、表35)。

表32 子に関する苦勞の有無と親の平日の起床時間

N(%)

	子に関する苦勞あり群	子に関する苦勞なし群	計
5時台	8 (11.9)	4 (18.2)	12 (13.5)
6時台前半	21 (31.3)	7 (31.8)	28 (31.5)
6時台後半	25 (37.3)	5 (22.7)	30 (33.7)
7時台前半	13 (19.4)	5 (22.7)	18 (20.2)
7時台後半	0	1 (4.5)	1 (1.1)
計	67 (100.0)	22 (100.0)	89 (100.0)

表33 親自身の苦勞の有無と親の平日の起床時間

N(%)

	親自身の苦勞あり群	親自身の苦勞なし群	計
5時台	10 (15.9)	2 (7.7)	12 (13.5)
6時台前半	21 (33.3)	7 (26.9)	28 (31.5)
6時台後半	18 (28.6)	11 (42.3)	29 (32.6)
7時台前半	13 (20.6)	5 (19.2)	18 (20.2)
7時台後半	0	1 (3.8)	1 (1.1)
不明	1 (1.6)	0	1 (1.1)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)

表34 子どもに関する苦勞の有無と親の休日の起床時間

N(%)

	子どもに関する苦勞あり群	子どもに関する苦勞なし群	計
5時台	2 (3.0)	2 (9.1)	4 (4.5)
6時台前半	4 (6.0)	1 (4.5)	5 (5.6)
6時台後半	8 (11.9)	2 (9.1)	10 (11.2)
7時台前半	17 (25.4)	8 (36.4)	25 (28.1)
7時台後半	16 (23.9)	4 (18.2)	20 (22.5)
8時台前半	15 (22.4)	3 (13.6)	18 (20.2)
8時台後半	5 (7.5)	0	5 (5.6)
9時台前半	0	2 (9.1)	2 (2.2)
計	67 (100.0)	22 (100.0)	89 (100.0)

表35 親自身の苦勞の有無と親の休日の起床時間

N(%)

	親自身の苦勞あり群	親自身の苦勞なし群	計
5時台	2 (3.2)	2 (7.7)	4 (4.5)
6時台前半	4 (6.3)	1 (3.8)	5 (5.6)
6時台後半	8 (12.7)	2 (7.7)	10 (11.2)
7時台前半	15 (23.8)	10 (38.5)	25 (28.1)
7時台後半	14 (22.2)	5 (19.2)	19 (21.3)
8時台前半	15 (23.8)	3 (11.5)	18 (20.2)
8時台後半	4 (6.3)	1 (3.8)	5 (5.6)
9時台前半	0	2 (7.7)	2 (2.2)
不明	1 (1.6)	0	1 (1.1)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)

平日の親の就寝時間は、全体的に最も多い時間帯は24時以降の30.3%であるが、「子どもに関する苦勞なし群」は24時以降31.8%、22時台前半27.3%であるのに対し、「苦勞あり群」は24時以降29.9%、23時台前半25.4%であった。また「親に関する苦勞なし群」は23時台前半の26.9%が最も多く、22時台前半と24時以降がそれぞれ19.2%であった。「苦勞あり群」は24時以降が33.3%、23時台前半22.2%で、いずれも「苦勞なし群」の方が早めに就寝している傾向がみられた(表36、表37)。

表36 子どもに関する苦勞の有無と親の平日の就寝時間

N(%)

	子どもに関する苦勞あり群	子どもに関する苦勞なし群	計
20時台前半	3 (4.5)	0	3 (3.4)
20時台後半	1 (1.5)	1 (4.5)	2 (2.2)
21時台前半	6 (9.0)	2 (9.1)	8 (9.0)
21時台後半	2 (3.0)	0	2 (2.2)
22時台前半	11 (16.4)	6 (27.3)	17 (19.1)
22時台後半	3 (4.5)	1 (4.5)	4 (4.5)
23時台前半	17 (25.4)	4 (18.2)	21 (23.6)
23時台後半	4 (6.0)	1 (4.5)	5 (5.6)
24時以降	20 (29.9)	7 (31.8)	27 (30.3)
計	67 (100.0)	22 (100.0)	89 (100.0)

表37 親自身の苦勞の有無と親の平日の就寝時間

N(%)

	親自身の苦勞あり群	親自身の苦勞なし群	計
19時台	0	0	0
20時台前半	1 (1.6)	2 (7.7)	3 (3.4)
20時台後半	2 (3.2)	0	2 (2.2)
21時台前半	5 (7.9)	3 (11.5)	8 (9.0)
21時台後半	1 (1.6)	1 (3.8)	2 (2.2)
22時台前半	12 (7.9)	5 (19.2)	17 (19.1)
22時台後半	4 (6.3)	0	4 (4.5)
23時台前半	14 (22.2)	7 (26.9)	21 (23.6)
23時台後半	2 (3.2)	3 (11.5)	5 (5.6)
24時以降	21 (33.3)	5 (19.2)	26 (29.2)
不明	1 (1.6)	0	1 (1.1)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)

休日の親の就寝時間は、最も多い時間帯は全体的には24時以降の37.0%であったが、「子どもに関する苦勞なし群」は22時台前半と24時以降の31.8%が最も多かった。「苦勞あり群」は24時以降の38.8%が最も多く、次は23時台後半の20.9%であった。また「親に関する苦勞なし群」で最も多いのは24時以降の30.8%で、次は22時台前半の26.9%であった。「苦勞あり群」で最も多いのは24時以降の38.1%で、次は、23時台前半の20.6%であった。いずれも両群間に大きな差はみられなかった（表38、表39）。

表38 子どもに関する苦勞の有無と親の休日の就寝時間 N(%)

	子どもに関する苦勞あり群	子どもに関する苦勞なし群	計
20時台前半	2 (3.0)	1 (4.5)	3 (3.4)
20時台後半	0	0	0
21時台前半	6 (9.0)	2 (9.1)	8 (9.0)
21時台後半	2 (3.0)	1 (4.5)	3 (3.4)
22時台前半	11 (16.4)	7 (31.8)	18 (20.2)
22時台後半	4 (6.0)	0	4 (4.5)
23時台前半	14 (20.9)	4 (18.2)	18 (20.2)
23時台後半	2 (3.0)	0	2 (2.2)
24時以降	26 (38.8)	7 (31.8)	33 (37.0)
計	67 (100.0)	22 (100.0)	89 (100.0)

表39 親自身の苦勞の有無と親の休日の就寝時間 N(%)

	親自身の苦勞あり群	親自身の苦勞なし群	計
20時台前半	1 (1.6)	2 (7.7)	3 (3.4)
20時台後半	0	0	0
21時台前半	7 (11.1)	1 (3.8)	8 (9.0)
21時台後半	2 (3.2)	1 (3.8)	3 (3.4)
22時台前半	11 (17.5)	7 (26.9)	18 (20.2)
22時台後半	3 (4.8)	1 (3.8)	4 (4.5)
23時台前半	13 (20.6)	5 (19.2)	18 (20.2)
23時台後半	1 (1.6)	1 (3.8)	2 (2.2)
24時以降	24 (38.1)	8 (30.8)	32 (36.0)
不明	1 (1.6)	0	1 (1.1)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)

② 食事時間

平日の親の朝食時間をみると、全体的に多いのは7時台前半が29.2%、7時台後半が27.0%であった。「子どもに関する苦勞なし群」は7時台前半が31.8%と最も多く、「苦勞あり群」で最も多いのは7時台後半の31.3%、次は7時台前半の28.4%であり「苦勞なし群」の方が朝食時間は早い傾向がみられた。反対に「親自身の苦勞なし群」は7時台後半30.8%であるのに対し、「苦勞あり群」は7時台前半30.2%、7時台前半28.4%であり、「親自身の苦勞あり群」に朝食時間が早い傾向がみられた（表40、表41）。

表40 子どもに関する苦勞の有無と親の平日の朝食時間

N(%)

	子どもに関する苦勞あり群	子どもに関する苦勞なし群	計
朝食なし	0	1 (4.5)	1 (1.1)
6時台後半	8 (11.9)	3 (13.6)	11 (12.4)
7時台前半	19 (28.4)	7 (31.8)	26 (29.2)
7時台後半	21 (31.3)	3 (13.6)	24 (27.0)
8時台前半	7 (10.4)	3 (13.6)	10 (11.2)
8時台後半	6 (9.0)	2 (9.1)	8 (9.0)
9時台前半	3 (4.5)	0	3 (3.4)
9時台後半	2 (3.2)	0	2 (2.2)
不明	1 (1.6)	3 (13.6)	4 (4.5)
計	67 (100.0)	22 (100.0)	89 (100.0)

表41 親自身の苦勞の有無と親の平日の朝食時間

N(%)

	親自身の苦勞あり群	親自身の苦勞なし群	計
朝食なし	1 (1.6)	0	1 (1.1)
6時台後半	9 (14.3)	2 (7.7)	11 (12.4)
7時台前半	19 (30.2)	7 (26.9)	26 (29.2)
7時台後半	16 (25.4)	8 (30.8)	24 (27.0)
8時台前半	6 (9.5)	4 (15.4)	10 (11.2)
8時台後半	7 (11.1)	1 (3.8)	8 (9.0)
9時台前半	1 (1.6)	1 (3.8)	2 (2.2)
9時台後半	1 (1.6)	1 (3.8)	2 (2.2)
不明	3 (4.8)	2 (7.7)	5 (5.6)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)

休日の親の朝食時間をみると、全体的には7時台後半から9時台前半までの4つの時間帯にそれぞれ20%前後で分散していた。「子どもに関する苦勞なし群」では最も多いのが7時台後半と8時台前半のそれぞれ22.7%で、「苦勞あり群」は8時台前半22.4%、9時台前半20.9%、8時台前半19.4%であり、「苦勞なし群」の方が、朝食時間が早い傾向がみられた。「親自身の苦勞なし群」では、最も多いのは8時台前半の23.1%であるのに対し、「苦勞あり群」では、8時台後半が20.6%、7時台前半と8時台前半がそれぞれ19.0%であった。こちらも「苦勞なし群」の方が、朝食時間が早い傾向がみられた（表42、表43）。

表42 子どもに関する苦勞の有無と親の休日の朝食時間 N(%)

	子どもに関する苦勞あり群	子どもに関する苦勞なし群	計
6時台後半	0	1 (4.5)	1 (1.1)
7時台前半	4 (6.0)	1 (4.5)	5 (5.6)
7時台後半	12 (17.9)	5 (22.7)	17 (19.1)
8時台前半	13 (19.4)	5 (22.7)	18 (20.2)
8時台後半	15 (22.4)	3 (13.6)	18 (20.2)
9時台前半	14 (20.9)	2 (9.1)	16 (18.0)
9時台後半	6 (9.0)	1 (4.5)	7 (7.9)
10時以降	1 (1.5)	2 (9.1)	3 (3.4)
不明	2 (3.0)	2 (9.1)	4 (4.5)
計	67 (100.0)	22 (100.0)	89 (100.0)

表43 親自身の苦勞の有無と親の休日の朝食時間 N(%)

	親自身の苦勞あり群	親自身の苦勞なし群	計
6時台後半	0	1 (3.8)	1 (1.1)
7時台前半	4 (6.3)	1 (3.8)	5 (5.6)
7時台後半	12 (19.0)	5 (19.2)	17 (19.1)
8時台前半	12 (19.0)	6 (23.1)	18 (20.2)
8時台後半	13 (20.6)	4 (15.4)	17 (19.1)
9時台前半	12 (19.0)	4 (15.4)	16 (18.0)
9時台後半	5 (7.9)	2 (7.7)	7 (7.9)
10時以降	2 (3.2)	1 (3.8)	3 (3.4)
不明	3 (4.8)	2 (7.7)	5 (5.6)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)

平日の親の夕食時間については、最も多いのは、「子どもに関わる苦勞なし群」が18時台後半31.8%、「親自身の苦勞なし群」同34.6%であるのに対し、「子どもに関わる苦勞あり群」は19時台前半28.4%、「親自身の苦勞あり群」同25.4%であった。両方とも「苦勞なし群」の方が、夕食時間が早い傾向がみられた（表44、表45）。

表44 子どもに関する苦勞の有無と親の平日の夕食時間

N(%)

	子どもに関する苦勞あり群	子どもに関する苦勞なし群	計
17時前	1 (1.5)	0	1 (1.1)
17時台前半	3 (4.5)	2 (9.1)	5 (5.6)
17時台後半	3 (4.5)	0	3 (3.4)
18時台前半	12 (17.9)	5 (22.7)	17 (19.1)
18時台後半	15 (22.4)	7 (31.8)	22 (24.7)
19時台前半	19 (28.4)	5 (22.7)	24 (27.0)
19時台後半	7 (10.4)	0	7 (7.9)
20時台前半	5 (7.5)	2 (9.1)	7 (7.9)
20時台後半	0	0	0
21時以降	1 (1.5)	0	1 (1.1)
不明	1 (1.5)	1 (4.5)	2 (2.2)
計	67 (100.0)	22 (100.0)	89 (100.0)

表45 親自身の苦勞の有無と親の平日の夕食時間

N(%)

	親自身の苦勞あり群	親自身の苦勞なし群	計
17時前	1 (1.6)	0	1 (1.1)
17時台前半	3 (4.8)	1 (3.8)	4 (4.5)
17時台後半	3 (4.8)	0	3 (3.4)
18時台前半	11 (17.5)	6 (23.1)	17 (19.1)
18時台後半	13 (20.6)	9 (34.6)	22 (24.7)
19時台前半	16 (25.4)	8 (30.8)	24 (27.0)
19時台後半	7 (11.1)	0	7 (7.9)
20時台前半	6 (9.5)	1 (3.8)	7 (7.9)
20時台後半	0	0	0
21時以降	1 (1.6)	0	1 (1.1)
不明	2 (3.2)	1 (3.8)	3 (3.4)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)

休日の夕食時間で多いのは、全体では19時台前半の40.4%である。「子どもに関わる苦勞なし群」は18時台前半が36.4%、「苦勞あり群」が19時台前半の44.8%であった。「苦勞なし群」の方がやや早い夕食時間であった。「親自身の苦勞なし群」は19時台前半が38.5%、18時台後半30.8%であるのに対し、「苦勞あり群」は19時台前半41.3%、18時台前半20.6%と続き、両群に大きな差は見られなかった（表46、表47）。

表46 子どもに関する苦勞の有無と親の休日の夕食時間 N(%)

	子どもに関する苦勞あり群	子どもに関する苦勞なし群	計
17時台前半	2 (3.0)	1 (4.5)	3 (3.4)
17時台後半	3 (4.5)	0	3 (3.4)
18時台前半	10 (14.9)	8 (36.4)	18 (20.2)
18時台後半	13 (19.4)	5 (22.7)	18 (20.2)
19時台前半	30 (44.8)	6 (27.3)	36 (40.4)
19時台後半	7 (10.4)	1 (4.5)	8 (9.0)
20時台前半	1 (1.5)	0	1 (1.1)
不明	1 (1.5)	1 (4.5)	2 (2.2)
計	67 (100.0)	22 (100.0)	87 (100.0)

表47 親自身の苦勞の有無と親の休日の夕食時間 N(%)

	親自身の苦勞あり群	親自身の苦勞なし群	計
17時台前半	2 (3.2)	1 (3.8)	3 (3.4)
17時台後半	2 (3.2)	0	2 (2.2)
18時台前半	13 (20.6)	5 (19.2)	18 (20.2)
18時台後半	10 (15.9)	8 (30.8)	18 (20.2)
19時台前半	26 (41.3)	10 (38.5)	36 (40.4)
19時台後半	7 (11.1)	1 (3.8)	8 (9.0)
20時台前半	1 (1.6)	0	1 (1.1)
不明	2 (3.2)	1 (3.8)	3 (3.4)
計	63 (100.0)	26 (100.0)	89 (100.0)

(3) 生活時間の比較

① 平日と休日の比較

表48には、子どもの平日と休日の生活時間帯を比較した結果をまとめた。子どもに関する苦勞・親自身の苦勞の有無にかかわらず、起床時間や朝食時間の一致度は30%台以下と低く、夕食時間や就寝時間の一致度は50%以上と高かった。休日には遅く起きて朝食も遅くなるが、

夕食や就寝時間は平日と同じ時間帯を守っているとみることができる。特に「親自身の苦勞なし群」の就寝時間の一致度は73.1%と高く、平日休日に関わりなく同じ時間帯に就寝していることが分かる。

表48 子どもの平日と休日の生活時間の比較

N(%)

	子どもに関する苦勞あり群			子どもに関する苦勞なし群		
	対象者数	一致者数	一致度(%)	対象者数	一致者数	一致度(%)
起床時間	67	21	31.3	22	7	31.8
就寝時間	67	42	62.7	21	12	57.1
朝食時間	67	10	14.9	22	4	18.2
夕食時間	67	34	50.7	21	13	61.9
	親自身の苦勞あり群			親自身の苦勞なし群		
起床時間	63	8	28.6	26	10	38.5
就寝時間	62	35	56.5	26	19	73.1
朝食時間	63	8	12.7	26	6	23.1
夕食時間	62	34	54.8	26	13	50.0

表49には、親の平日と休日の生活時間帯を比較した結果をまとめた。子どもの場合と同様に、起床時間や朝食時間の一致度は30%未満と低く、夕食時間や就寝時間の一致度は50%以上と高かった。休日には遅く起きて朝食も遅くなるが、夕食や就寝時間は平日と同じ時間帯を守っていた。その中で、子どもに関する苦勞・親自身の苦勞の両方とも、「苦勞なし群」の就寝時間、夕食時間の一致度が60%以上と高かった。

表49 親の平日と休日の生活時間の比較

N(%)

	子どもに関する苦勞あり群			子どもに関する苦勞なし群		
	対象者数	一致者数	一致度(%)	対象者数	一致者数	一致度(%)
起床時間	67	10	14.9	22	6	27.3
就寝時間	67	42	62.7	22	15	68.2
朝食時間	64	13	20.3	19	2	10.5
夕食時間	66	35	53.0	21	13	61.9
	親自身の苦勞あり群			親自身の苦勞なし群		
起床時間	63	9	14.3	26	7	26.9
就寝時間	63	38	60.3	26	19	73.1
朝食時間	60	11	18.3	23	4	17.4
夕食時間	62	32	51.6	25	16	64.0

② 子どもと親の生活時間の比較

表 50 には、平日の子どもと親の生活時間帯を比較した結果をまとめた。全体的には就寝時間の一致度は 12%未満と低く、子どもの方が早い時間帯に就寝している。「子どもに関する苦勞なし群」は、起床時間、朝食時間がいずれも「苦勞あり群」よりも一致度が高かった。

「親に関する苦勞なし群」と「苦勞あり群」を比較すると、起床時間が「苦勞なし群」の一致度が 2 倍ほど高いのを除いて、両群に大きな差は見られなかった。

表50 平日の親と子どもの生活時間の比較

N(%)

	子どもに関する苦勞あり群			子どもに関する苦勞なし群		
	対象者数	一致者数	一致度(%)	対象者数	一致者数	一致度(%)
起床時間	67	10	14.9	22	9	40.9
就寝時間	67	6	8.9	21	1	4.8
朝食時間	66	36	54.5	19	14	73.7
夕食時間	67	59	89.4	21	19	90.5
	親自身の苦勞あり群			親自身の苦勞なし群		
起床時間	63	10	15.8	26	9	34.6
就寝時間	62	8	12.9	26	3	11.5
朝食時間	61	36	59.0	24	14	58.3
夕食時間	62	56	90.3	25	21	84.0

表51 休日の親と子どもの生活時間の比較

N(%)

	子どもに関する苦勞あり群			子どもに関する苦勞なし群		
	対象者数	一致者数	一致度(%)	対象者数	一致者数	一致度(%)
起床時間	67	33	49.8	22	7	31.8
就寝時間	67	9	13.4	22	2	9.1
朝食時間	65	42	64.6	20	11	55.0
夕食時間	66	58	87.9	21	19	90.5
	親自身の苦勞あり群			親自身の苦勞なし群		
起床時間	63	30	47.6	26	10	38.5
就寝時間	63	7	11.1	26	4	15.4
朝食時間	61	43	70.5	24	10	41.7
夕食時間	62	56	90.3	25	20	80.0

休日の子どもと親の生活時間の比較結果は表 51 にまとめた。全体的には就寝時間の一致度は 16%未満と低いが、休日になると「子どもに関する苦勞あり群」の方が、夕食時間を除いて、起床時間、朝食時間は「苦勞なし群」よりも一致度が高くなっていた。「親に関する苦勞なし群」と「苦勞あり群」を比較しても同様で、就寝時間が「苦勞なし群」の一致度がやや高いのを除いて、「苦勞あり群」の方が起床時間、朝食時間、夕食時間の一致度は高かった。

IV. 考察

結果の項で述べたように、「子どもに関する苦勞」は、「子どもが言うことを聞かない」「子どもの食に関すること」が主なものであった。「親自身の苦勞」は、「自由時間がとれない」「仕事と育児の両立」「自分の健康維持・体調不良」であった。それぞれの苦勞を「あり」とする回答者は約 4 分の 3、「なし」とする回答者は 4 分の 1 であり、両方の苦勞とも「なし」とする回答者は、さらにその半分であり、育児に関して「苦勞あり」とする回答者は多いといえる。

しかし、「子どもが言うことを聞かない」ことが苦勞の種といっても、育児で大切なこととして「言うことをきく素直さ」を子どもに求める親は少ない。筆者らのこれまでの調査においても、今回と同様の結果を得ている。子どもの自主性を尊重して強制はしたくないが、できれば親の望むとおりにして欲しいという相反する願いに「苦勞」の種が潜んでいるように思われる。また食に関しては、親が望む量（それは往々にして育児書の示す標準量）を食べて欲しいということであろうか。しっかりと躰ける項目の中で「食事を残さない」とする回答は全体的には 25%程度と少なかったが、「苦勞なし群」の方が「苦勞あり群」よりもその割合は多く、旧来からの食事の躰をしているとみることができよう。

(1) 育児で大切なこと、しっかりと躰けることと子どもに任せること

育児で大切にしていることとして、上位の回答は「健康」「親子の気持ちの通じ合い」「自主的な意思表示」であった。

両方の「苦勞なし群」とも、育児で大切なこととして、第一に「健康」、次に「親子の気持ちの通じ合い」をあげている。しっかりと躰けることは「知人に挨拶」「家庭内での挨拶」「食事のマナー」「就寝時間」「歯みがき」であった。つまり、「苦勞なし群」は 3 歳から 4 歳になるこの年齢の子どもに対して、「挨拶」「食事のマナー」「就寝時間」のように、旧来からの基本的生活習慣を身につけさせることに重点を置いているということが分かる。それに対して両方の「苦勞あり群」は、育児で大切なこととして、「自主的な意思表示」が第一であり、「健康」「親子の気持ちの通じ合い」の順であった。しっかりと躰けることは「歯みがき」「いじわるをしない」「知人に挨拶」の順であり、基本的生活習慣を優先させてはいないことが分かる。また、子ども任せにしていることについて、「親自身の苦勞あり群」は、「食事にかかる時間」「テレビを見る時間」の割合が高かった。「時間」を守ることには厳しくない傾向がみられる。

両方の「苦勞あり群」は、基本的生活習慣を身に付けさせることよりも、子どもの自主性や

子ども同士の対人関係を優先しているということができよう。

(2) 子どもが泣いた時の対処法

子どもが泣いた時、半年前は「抱っこする」「言葉かけ、機嫌を取る」「気分転換を図る」「放っておく」が同じ割合で多かったが、今回は「放っておく」「気分転換を図る」が減り、「抱っこする」が突出して多かった。これは子どもが成長して、ある程度の感情のコントロールができるようになった証かもしれないし、親が有効な対処法を学習した成果かもしれない。その中で、両方の「苦勞なし群」が「抱っこする」の割合が突出しているのに対し、両方の「苦勞あり群」は「言葉かけ、機嫌を取る」の割合が「抱っこする」の割合がともに高かった。これは子どもをなだめようとする親の努力の現れとみることができるが、苦勞を増幅させているとみられることもできる。3歳すぎの幼児には、まだ「言葉による説得」は難しいのではないだろうか。

(3) 子どもの生活時間と苦勞の有無

生活リズムの基本である起床時間と就寝時間のうち、しっかりと躰けているのは起床時間よりも就寝時間である。早い時間に寝れば、自然に朝の起床も早くなるからと思われる。半年前に比べて、22時台後半に就寝していた子どもが平日では皆無になり、休日でも激減したことに子どもの成長と躰の成果をみることができる。

就寝時間は、両方の「苦勞なし群」がともに早寝の傾向があり、平日と休日の一致度も高い。子どもと親の就寝時間の一致度は低く、「子どもは早く寝る」という基本的な生活習慣を身に付けさせた成果とみることができよう。

起床時間については、「子どもに関する苦勞なし群」が平日・休日ともに早起きの傾向がみられたが、親自身の苦勞の有無では「苦勞あり群」の方が、平日では早起きであった。「苦勞あり群」は就寝時間が遅い傾向がみられる上に、平日と休日の起床時間の一致度が「苦勞なし群」よりも低いことから、平日は子どもを早く起こすための苦勞があるかもしれないと推測される。

朝食時間は、平日は起床時間と連動しているようすが伺えるが、休日になると1時間ほど遅くなる。平日は両方の「苦勞なし群」に朝食時間が早い傾向がみられ、特に「子どもの苦勞なし群」の子どもと親の朝食時間の一致度が高く、旧来からの習慣どおり親子で共に朝食をとることを大切にしていることが分かる。

(4) 親の生活時間と苦勞の有無

親の起床時間は子どもよりも早いのが、最も早起きは平日の「親自身の苦勞あり群」であり、最も遅寝も平日の「親自身の苦勞あり群」であった。さらに両方の「苦勞あり群」は平日と休日の起床時間の一致度は低く、就寝時間の一致度は高かった。つまり平日に早起きをしているので、睡眠不足を補うためか、休日の起床時間は遅くなっているが、就寝時間も平日と同じく遅い。このように平日の睡眠時間が短いという生活習慣は、疲れがたまりやすく休日の朝に補ってもなお「自由時間が取れない」「自分の健康維持・体調不良」という「親自身の苦勞あり」の

原因になっているとみることができよう。

朝食時間は、両方の苦勞の有無にかかわらず、平日と休日の一致度は低く、休日の朝食時間は遅くなっている。しかし、子どもとの一致度は、前述の平日の「子どもの苦勞なし群」を筆頭に、他の群も50%以上と低くはない。特に両方の「苦勞あり群」は、休日になると、起床時間、朝食時間の子どもとの一致度が高くなっている。休日は子どもの時間に合わせて遅く起きて、朝食も子どもとともにとっていることが分かる。平日にはできない子どもとの朝の時間を共有しているが、その時間を合わせることのしわ寄せが「苦勞あり」の原因となっていなければ幸いである。

夕食時間は、両方とも「苦勞なし群」の方が「苦勞あり群」よりも早い傾向がみられたが、どの群も子どもとの一致度が高く、家族とともに夕食をとるという旧来からの習慣が生きていることが分かる。

これまでの研究結果から、旧来からの躰を重んずることは、子どもの生活リズムを確立し、子どもにいうことを聞かせようとする親の日々の苦勞を軽減させてくれる可能性のあることが判明した。一方、子どもの気持ちや自主性を重んずることは、現代の育児観においては重視されていることであり、大切にされなければならない。しかし、子どもの気持ちばかりを優先させることは、日常の生活において親の苦勞を倍増させることにつながりかねない。要は、バランスの問題であるが、子どもの気持ちを汲み取りつつ、基本的な生活習慣の躰も怠らないことが求められよう。

また、子どもの年齢も考えなければならない。親の求める躰が受け入れ可能か否かの子どもの年齢的発達状況である。まだ感情のコントロールができない年齢の時に気持ちの尊重ばかりを重視しすぎていないかという視点も必要であろう。

保育において、子どもを「受け入れる」とことと「教える」とこととの両義的対応が求められているように、躰をすることは強制的な育児に該当するという一義的なとらえ方は一考を要すると思われる。

V. 要約と今後の課題

半年前に比べ、22時以降まで起きている子どもは、平日では皆無になり休日でも激減していた。育児に関する苦勞は、子どもに関する苦勞と親自身の苦勞とに分けて考える必要があるが、両方の「苦勞なし群」は、子どもは健康であればよく、躰において旧来からの「挨拶」「食事のマナー」「就寝時間」など基本的な生活習慣の確立に重きを置いている。また平日は親子とともに朝食をとっている割合が高い。その結果、子どもに早寝早起きと朝食をとる生活習慣が身につく、親自身も睡眠時間が確保でき、朝食もとれて、親が感じる苦勞は軽減していると思われる。

それに対して両方の「苦勞あり群」は、子どもの自主的な意思表示を重んじ、歯みがきやいじわるをしないことなどを躰の第一におき、旧来からの基本的な生活習慣よりも、子どもの自主性や子ども同士の対人関係に気を遣っているようであった。

「苦勞あり群」の親の平日の起床時間は早く就寝時間は遅い。休日になると起床時間は遅くなり、睡眠不足を補っているが、ここに自由時間がとれないとか体調不良をきたす原因があると推測される。また、子どもの就寝時間は遅いのに起床時間は早く、親が子どもを苦勞して起こしている可能性もある。

子どもが泣いた時の対処法は、「苦勞なし群」が主に「抱っこする」ことだけで対処しているのに対し、「苦勞あり群」は「抱っこする」と「言葉かけ、機嫌を取る」の二つ方法で対処していた。ここにも、親の苦勞の要因があるように思われる。

夕食は、親の苦勞の有無にかかわらず、親子で共にとる割合が高く、旧来からの習慣が大切にされていた。

親から子どもへ躾をする場合と子どもの自主的な行動を待っている場合では、後者の方が親の忍耐力が求められる。そのことが「苦勞」と感じる要因の一つになると考えられる。子どもの気持ちや年齢を考慮しつつ基本的な生活習慣の確立が必要であろう。

本研究において「親子」と表現しているのは母親と子どもであり、父親を含めた家族全体の生活をみてこなかった。今後の課題としては、家族全体を対象とした調査を行い、さらに「親の苦勞」の実態に迫って行くことが求められる。

引用・参考文献

- 窪龍子・井狩芳子・野田耕 2005「幼児の心身の健康に関する研究—幼稚園児と保育園児の遊びの調査(1)」『実践女子大学人間社会学部紀要第一集』
- 窪龍子・井狩芳子・野田耕 2006「幼児の心身の健康に関する研究—幼稚園児と保育園児の遊びの調査(2)」『実践女子大学人間社会学部紀要第二集』
- 窪龍子・井狩芳子・野田耕 2007「幼児期の生活と遊びに関する研究—幼稚園児の降園後の遊びから「三開がない現象」について—」『実践女子大学人間社会学部紀要第三集』
- 窪龍子・井狩芳子 2008「母親が感じる育児上の「困難」に関する研究(1)—幼稚園と保育園における調査から—」『実践女子大学人間社会学部紀要第四集』
- 窪龍子・井狩芳子 2009「母親が感じる育児上の「困難」に関する研究(2)—幼稚園と保育園における3歳児の母親の調査から—」『実践女子大学人間社会学部紀要第五集』
- 鯨岡峻・鯨岡和子 2001『保育を支える発達心理学』ミネルヴァ書房
- 鯨岡峻 2002『育てられる者から育てる者へ』NHK ブックス 938 日本放送協会
- 長谷川一博 2005『お母さんはしつけをしないで』草想社

付記：今回の調査にご協力くださったN幼稚園とT保育園の関係各位と保護者の方々に心よりの謝意を表します。

<添付資料>

子どもの生活時間と育児に関する調査 (№2 0902)

皆様には前回の夏のアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今回もよろしくお願ひします。この調査は、子どもの生活時間と育児の現状について調査するものです。前回と同じ質問もありますが、それは、お子さんの成長による変化をみるためです。この結果は、研究の目的以外には使用いたしませんし、個人の情報が特定されることもありませんので、率直にご回答いただきたくお願ひします。今回の調査も、年少組のお子さんを対象にお答え下さい。

下記の各質問について、あてはまるものに○、() 内にはあてはまることをご記入下さい。

あなたのお名前(カタカナで): ()	あなたの性別: 男・女	あなたの年齢: 満 歳 (現在の年齢を記入)	あなたの職業: あり・なし
家族構成(○をつけてください) (1)親と子 (2)祖父・祖母、親と子 (3)その他()			
お子さんの数 男児 人(年齢)		女児 人(年齢)	
住居形態(○をつけてください) (1)一戸建て (2)集合住宅(住んでいるのは 階)			
お子さんのお名前(カタカナで): ()	お子さんの性別 男・女	クラス名	

Q1. お子さんの生活時間についてお尋ねします。お子さんの生活時間をご記入ください。

*なお、該当しない項目や不明の項目については、空欄のまま飛ばしてください。

1-1. 現在の平日(幼稚園・保育園がある日)の過ごし方

- ①起床時刻(時 分)ごろ ②朝食(時 分)ごろ
③昼食(時 分)ごろ ④あそび(時間 分)位
⑤昼寝(時間 分)位 ⑥おけいこ事(時間 分)位
⑦夕食(時 分)ごろ ⑧就寝時刻(時 分)ごろ

1-2. 現在の休日(幼稚園・保育園の休みの日)の過ごし方

- ①起床時刻(時 分)ごろ ②朝食(時 分)ごろ
③昼食(時 分)ごろ ④あそび(時間 分)位
⑤昼寝(時間 分)位 ⑥おけいこ事(時間 分)位
⑦夕食(時 分)ごろ ⑧就寝時刻(時 分)ごろ

Q2. お子さんの生活時間や内容は、4月当時(3歳児クラス)と比べ変わりましたか?お気づきの内容をご記入ください。(例:遊び方・食欲・睡眠・情緒面・友だち関係・健康全般・病気・興味・他)

()

2-2. 今年度の4月に3歳児クラスに入園する前、お子さんは平日の日中、どのように過ごしていましたか?

- ① 幼稚園・保育園等の集団生活に所属(1日の半日以上・週4日以上)
② 幼稚園・保育園等の集団生活に所属(1日の半日以上・週3日以下)
③ 子育てサークル・お稽古事などの合計(1日数時間・週4日以上)
④ 子育てサークル・お稽古事などの合計(1日数時間・週4日以上)
⑤ 特に決まったスケジュールはない
⑥ その他

<次からは、育児に関する質問です>

Q3. 育児に関して“主たる養育者”についてお尋ねします。

3-1. あなたは、現在もご自分が育児に関して“主たる養育者”だと思いますか？

- (1) 主たる養育者である (2) 配偶者等と半々である (3) 従の養育者である

3-2. 上記で回答した状況については納得していますか？

- (1) 納得している → Q4へ進んでください。
(2) 時々、納得できないこともある (3) 納得できないことが多い → 3-3へ進んでください。

3-3. 上記で(2)と(3)に回答した方にお尋ねします。どのような状況になれば改善されると思いますか？

*以下、複数回答可能です。

- (1) 配偶者が育児にかかわるように意識が変わること (2) 社会制度が変わること
(3) その他(具体的に:)

Q4. 現在のあなたの育児方針についてお尋ねします。

4-1. あなたが比較的しっかりとしつけをしていると思うことは、どのようなことですか？

- (1) 起床時間 (2) 就寝時間 (3) 食事にかかる時間 (4) テレビなどを見る時間
(5) 食事を残さない (6) 食事のマナー (7) 歯磨きをすること
(8) 衣類の脱ぎ着をきちんとすること (9) 登園すること(休まない)
(10) 友達にいじわるをしないこと (11) 家庭内であいさつをすること
(12) 知人にあいさつをすること (13) 親の言うことを聞くこと
(14) けいこ事に休まず行くこと (15) ぐずぐずいわないこと
(16) その他(具体的に:)

4-2. あなたが比較的子どもの思う通りにさせていることは、どのようなことですか？

- (1) 起床時間 (2) 就寝時間 (3) 食事にかかる時間 (4) テレビなどを見る時間
(5) 食事を残さない (6) 食事のマナー (7) 歯磨きをすること
(8) 衣類の脱ぎ着をきちんとすること (9) 登園すること(休まない)
(10) 友達にいじわるをしないこと (11) 家庭内であいさつをすること
(12) 知人にあいさつをすること (13) 親の言うことを聞くこと
(14) けいこ事に休まず行くこと (15) ぐずぐずいわないこと
(15) その他(具体的に:)

Q5. 育児をする上で、いま最も大切に思っていることは、どのようなことですか？(以下複数回答可)

- (1) 健康であれば何もいうことはない (2) 親子の気持ちが通じ合うこと
(3) 子どもがお友達と仲良くできること (4) 園で先生や友達とうまくやっていくこと
(5) おとなのいうことをよくきく、素直な子どもであること
(6) おけいこ事などをとおして、持っている可能性を伸ばせるようにすること
(7) 子どもの気持ちを第一に考えて受けとめ、何よりも優先している
(8) 子どもが、将来自立的な人になれるように、意思表示ができるようにすること
(9) 一般的な成長の指標に遅れないように育てること
(10) その他()

Q6. 子どもが理由もなく機嫌が悪かったり、泣きやまないときには、どのように対処していますか？

- (1) 言葉かけて、気持ちをなだめる (2) スキンシップをして、気持ちをなだめる
(3) 泣きやむまで放っておく (4) 場所を変えるなど気分転換を図る
(5) 口で叱る (6) 叩く
(7) その他()

Q7. 現在(年少クラス終了時)、育児の中で最もうれしいこと、苦勞していること、さらに、その対処法についてお尋ねします。

*育児の上でうれしいこと(自由記載:)

*苦勞していること

7-1. 子どものことについて

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| (1) 泣いたり激怒するなど、感情が不安定なこと | (2) 落ち着きがなく何をするかわからないこと |
| (3) 子どもの気持ちがかんがらないこと | (4) 日常の世話のすべてが大変である |
| (5) 子どもがいうことを聞かない時があること | (6) 食べる量が多い・少ないなど食に関すること |
| (7) 生活リズムや基本的な生活習慣がつかないこと | (8) アレルギー疾患など、病気に関すること |
| (9) ことばや発音に関すること | (10) 遊びに関すること |
| (11) 特に苦勞していることはない | (12) その他() |

7-2. 親自身のことについて

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| (1) 自由な時間がとれないこと | (2) 自分の健康保持、体調不良 |
| (3) 仕事と育児の両立 | (4) 配偶者の協力が得られないこと |
| (5) 親達の口出し | (6) 親しいママ友が得られないこと |
| (7) 経済的なこと | (8) 家事一般や食事作りが煩わしい |
| (9) 世の中から取り残されているように感じること | (10) 特に苦勞と思うことはない |
| (11) その他() | |

7-3. 上記(7-1・2)の困り事にどのように対処をしますか? 該当する全ての数字に○をしてください。

- | | |
|---|-----------------|
| (1) 具体的な解決策を積極的に探す | (2) その場、その場をしのぐ |
| (3) 誰かに話す: ①夫 ②父母 ③義父母 ④兄弟姉妹 ⑤友人知人等 ⑥インターネットなどに書き込む
⑦保育者 ⑧ママ友達 ⑨その他:() | |
| (4) 気分転換をする: ①寝る・食べる・入浴 ②喫煙・飲酒 ③趣味 ④その他:() | |
| (5) 自分の時間を積極的に作る: ①夫に預ける ②親に預ける ③預かり保育やベビーシッターなどの利用
④外食利用 ⑤掃除・買い物・調理等の家事委託 ⑥その他() | |
| (6) 行動を起こす: ①子育てサークルを作る ②仕事に就く ③その他() | |
| (7) 知識の習得: ①本 ②ネット ③保育者 ④先輩やママ友のアドバイス ⑤電話相談・相談機関の利用 | |
| (8) 八つ当たりをする: ①子ども ②子ども以外の人 ③ペットや植物 ④物 | |
| (9) 特に何もしない: ①そんなに苦にならない ②いつのまにか忘れる ③一人で耐える | |
| (10) その他() | |

<Q8. 最後に、あなたの現在の生活時間について、お尋ねします>

8-1. 「お子さんの幼稚園・保育園がある日」の過ごし方

- | | |
|---------------|--------------|
| ①起床時刻(時 分)ごろ | ②朝食(時 分)ごろ |
| ③夕食(時 分)ごろ | ④寝時刻(時 分)ごろ |

8-2. 「お子さんの幼稚園・保育園の休みの日」の過ごし方

- | | |
|---------------|---------------|
| ①起床時刻(時 分)ごろ | ②朝食(時 分)ごろ |
| ③夕食(時 分)ごろ | ④就寝時刻(時 分)ごろ |

Q9. 子どもの生活時間に関して、また育児について、今の世の中に欠けていると思われること、子どもの将来について心配されていること、このアンケートについてお気づきのことなど、裏面を使っていただいて、どのようなことでも自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。 井狩芳子(和泉短大)・窪龍子(実践女子大学)